

JCF J1 TIOGA びわこ高島 STAGE XCO 第1戦 レースレポート

MIYATA-MERIDA BIKING TEAM 齊藤 亮

大会名：JCF J1 TIOGA びわこ高島 STAGE XCO 第1戦

期日：2013年5月6日（月）

会場：滋賀県朽木スキー場 特設コース

天気・気温：晴・23℃

競技種目：男子エリート 4.3km×6周回

出場者数：75名

結果：優勝



.....

2013年のMTBシリーズ戦（J1）の幕開けとなるジャパンシリーズ#1 びわこ高島大会。Jシリーズの開幕戦はどの選手、どのチームにとってもやはり特別なものである。昨年ナショナルランキングを1位で終了し、今年のシリーズ戦でのゼッケンナンバーは「1」。この「1」を付ける喜びと重圧。憧れていた「1」ではあるが、追いかける立場から追われる立場へ変わるプレッシャーもこの「1」の宿命。

今レースはGW期間ということもあり、交通渋滞や長時間の車移動なども考慮した上で余裕を持ってレース2日前に会場入りした。この日は固まった体を解す程度に固定ローラーに乗り、コースチェックを1周だけ行い会場を後にした。思いの外疲れも感じることなく、体の調子も悪くない。レースに向けた自分のイメージをしっかりと持ち、心と身体を整えていく。レース前日、10時に会場入りして準備開始。今レースから愛車である「MERIDA / BIG.NINE CARBON TEAM-D」の2014年モデルを準備して頂きセットアップ。チームスタッフが早朝から機材の調整を行ってくれているお陰で何の問題も違和感もなくNewバイクに順応することが出来た。

New バイク、New ジャージ、New シューズ、New ヘルメット、New 手袋、New サングラス、New アンダーウェア、、、全てが「New」で揃えられ開幕戦を迎えられる喜びにテンションが上がらない訳がない。機材調整や打ち合わせを終え、コース試走開始。昨年のコースとは若干の変更があるものの6~7割方は同コース。路面状況はほぼドライコンディションで走りやすいものの、石砂利を敷き詰められ完全に乾ききった下り路面は非常に滑りやすい。タイヤ選択にはあまり悩むことなくドライ系タイヤ「IRC / MYTHOS XC TUBELESS READY (29×2.1)」をチョイスした。コースはスキー場の傾斜に設定され、平坦がほとんど無く登って下るというイメージのコース。下りは縦の動きが多く、ドロップオフ、スイッチバック、キャンパー、高速バンク、ロックセクションとバリエーションが豊かなゆえに休みどころがない。日本では珍しくバラ

ンスの取れたコースと言える。前日はコース試走を 3 周し、スタッフやサプライヤーさんとの打ち合わせを終え会場を後にした。

天気予報の通りレース当日も快晴の天気。気温が暑いくらいに感じるほど。早朝からチームスタッフは会場に入り、バイクを最高の状態に仕上げ選手を迎えてくれる。レース 2 時間前に会場に到着するといつも通りホルメンコールのサービスマンがバイク・チェーンのコーティング作業をしてくれている。何度も何度も話し合い、テストを繰り返し、常に最良の選択でケミカルをチョイスしてくれるので不安要素なんて全くない。関係者との一心同体といえる“最高の準備”が自身のモチベーションに繋がり、その思いがバイクに乗り移っているのを感じてしまう。

男子エリートのスタートは 14 時 15 分。万全の状態で送りだしてもらいスタートラインに着

く。定刻通りに 2013 年度ジャパンシリーズ開幕のスタートが切られた。課題のスタートも失敗することなくクリートをキャッチ。勢いのある若手 2 人に先行されるカタチでレースが展開されていく。様子を見ながら冷静に相手の出方を見極める。1 周目中盤から最大のライバルである小野寺選手 (SPECIALIZED) が積



極的に先頭に出てレースを引っ張る。そこをしっかりとマークし走り方やラインなどを伺う。2

人バックになるのは予想通りの展開。後ろに着きながら勝負所や仕掛けるポイントなどを探る。3 周目までは 2 人パックで走行し、4 周目の登りで若干ペースが落ちたところを見計らうように渾身のアタックを仕掛ける。中途半端なペースアップではチェックに入られてしまうのは分かっていたので、トルクを掛けて一



気にアタックして 40 秒程の差を付けることが出来た。ここからは独走体勢に持ち込むため、

緩急を付けた走りで乳酸を処理しながらレースを組み立てていった。後続とのタイム差を意識しながらも自分の走りに徹する。作戦としてはうまくいったが、それに対応する走りのテクニックとスキルはまだまだ足りていない。しかし今の自分の力と技すべてを出し切り、2位に1分32秒差を付けて優勝することが出来た。最後の最後まで集中しもがきながらトップでのゴール。

何度味わっても最高に気持ちのいい瞬間だ。いつも温かく向かい入れてくれるスタッフの笑顔を見ると、自然と笑みが出てくる。悔しい時も嬉しい時も常に一緒に戦い、支えてくれたスタッフ、サプライヤーの皆さまが何よりも心の支えとなり心強くレースを戦えている。レース中に感じたこと、終わって気付くこと、全てをしっかりと受け止めてまた次に進んでいきたい。次戦は今週末（5月12日）に行われるアジア大陸選手権に日本代表として出場する。タイトなスケジュールになるが、自覚と責任を果たし、絶対にメダルを持ち帰りたいと思う。

チームスタッフを始め、サポートして頂いたサプライヤーの皆さま、応援して頂いている皆さま、いつも献身的なサポート本当にありがとうございます。

国内シリーズもいよいよ幕を明け、更に上を目指し飛躍していきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。



【レース結果】

1. 齊藤 亮 長野県/MIYATA-MERIDA BIKIG TEAM
2. 小野寺健 京都府/TEAM SPECIALIZED
3. 千田尚孝 愛知県/自転車村 R
4. 門田基志 愛媛県/TEAM GIANT
5. 中原義貴 大阪府/CANNONDALE
6. 前田公平 東京都/TEAM SCOTT



【使用機材】

バイク：MERIDA / BIG.NINE CARBON TEAM-D (2014 モデル)

フロントフォーク：DT-SWISS / XMM100-29 TS REMOTE TAPER

クランクセット：SRAM / XX1

サドル：SELLE ITALIA SLR XC

ホイール：

タイヤ：IRC / MYTHOS XC TUBELESS READY (29×2.1)

シューズ：NORTHWAVE / エクストリームテック MTB S.B.S

ヘルメット：KOOFU/WG-1

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim pro / グレイ S グラデーション

ケミカル：**HOLMENKOL**

チェーン：ルーベエクストリーム、ルーベンスピード、ダートプロテクター、ライニガー

スプロケット：ダートプロテクター、スポーツクリーン

フレーム：スポーツポリッシュ、アクアスピード

サングラス：ノーフォグ

ウェア・シューズ：ハイテクプルーフ

メーター：POLAR / RS800CX BIKE

エネルギージェル：shotz ENERGY GEL

ドリンク：Electrolyte shotz

レースウェア：WAVE ONE

レースソックス：deuter

レースグローブ：KABUTO / PRG-1

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

テーピング：New-HALE

ネックレス：erg

